

米俵の堤

今坂柳二

むかし……いや、この話とはつくの昔に、むかしむかしになったかも知れませんが、いや、おらが話そうかと思ってる酒造家のことさ。

ハンノウにはテンランザン、ヒダカにやあコマオーなんその造り酒屋さんが、おいしい酒を造っておるようだが、おらの町にはおらん。

でもな、昔はあったんじゃよ。いや、むかしむかしのことだがね。

なに、知らんちゅうのかい。そりゃあ残念じゃ。そんじゃあ、こうしましょう。今日はおらもいささかなれどヒマがある。誰か、好みの話し相手が、現われんもんかって首を長く伸しとったところじゃ。ちよどうぞよろしい、お風呂の湯加減じゃないが「いい加減」でありました。

さて、と。

その造り酒屋、水が適したもんやら腕が良かったもんやら、まあ、運にも恵まれたんでありましような。例えるならば鯉の滝登りか、昇天する龍のごとき勢いだったとやらであります、昨年一の倉を建てたかと思えば、今年は一の倉をぶつ建てて、来年は三の倉をおつ建ててらしいでとまあ、そんなあんばいでありました。

ジャーン ジャジャンジャンジャーン ジャンジャンジャン

おーい、ていへんだあ、堤が切れたぞー。こんだあ、こつちがあぶねえ、大急ぎで砂袋を二、三十ヶ担いできてくれー。あ、あー、足元がまっくらで動けねえよ、灯りをこつちにむけるんだあ……

そんなときまで黙っていた酒蔵の旦那が大声張り上げた。「この堤が切れるとわしの酒蔵だけじゃすまん、このへんの家々が石の河原だ。いいですか皆の衆、わしらの倉一つに米が百俵入つとる五つの米倉、一俵のこらず担ぎ出して堤代りに使ってくれ。それ、皆さん方、お頼みいたすぞ。」

この一声でイルマ川右岸の堤防は決壊をまぬかれたという、度胸一番の……おっと、忘れておりました、名高い久星酒造全盛期のあらましであります。



洪水の翌年(明治44年)に、
水害防止を祈願して
建立された水神碑



水神を祭った水神社
(入間川三丁目 イオン
武蔵狭山店駐車場裏)

いまさか りゅうじ

狭山市笹井在住。二十四歳から俳句に関わって、現在同人誌「つばさ」代表。
かたわら、昔ばなしの採集・採話を続け、「龍じいの昔ばなし」以下十冊発行。

編集後記

定期総会が終り、新体制が発足。横山会長が引退されました。総会後の慰労会では、小高顧問はじめ、ゆかりの25名が出席。なごやかな中に各人が思い出話や感謝の言葉を語り、横山さんの人柄と併せ、功績を称えました。私も感謝です。

事務局会報チームが会報委員会になりました。一緒に会報作りをして下さる方を募集します。

(高沢正夫)